

# 第34回 こうう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成30年9月13日(木)

# 参加者の名様へ

- 各テーブルに、名札を準備しました。  
『所属(事業所名)』『職種』『名前』をお書きください。
- 名札を同じテーブルの方からよく見える高さでつけてください
- 
- お帰りの際は、受付にお戻しください。  
～お互いの顔と名前を知り合って、  
さらに交流を深めましょう！～

# 交 流 会

- ①話題提供を聞いた感想・もっと知りたいこと
- ②「本人の選択・本人と家族の心構え」「自助・互助の促進」などについて、患者さん、利用者さん、身近な方々に、どのようなアプローチができるとよいか など

✿グループ発表後は、自己紹介タイムです。

## 感想

- ・ 包括って？何をしているのか。役割がまだ十分に周知されていない。
- ・ 包括支援センターの活動を聞き、包括が謎の機関だなとの感想があった
- ・ 金龜体操はどこでやっているのか？詳しく知りたい。
- ・ 「いなえパトロール」を他職種に知っていただくことができた。好評だった。
- ・ 薬剤師さんが健康な方に対して取り組みをしていること、写真を見て包括が地域に出ていることを知り驚いた。
- ・ 薬剤師の取り組みは、多職種との顔の見える関係から広がっていったのではないかと感じた。
- ・ 病院などでは、住民から「どこに相談したらいいか」という問い合わせが多いということを知った。病院などで案内してもらい、包括につなげてもらえていることが分かった。

- ・ 歯科医師より、まずは食べること、かむこと、口から物を入れること、これが大事であることを教えていただいた。
- ・ 薬局が民生委員と連携し、住民が出かけられる場を提案してくれていることが分かった。
- ・ 郡部(町)については田舎の強みがある。住民との関係がつくりやすい。
- ・ しかし、葬儀については、葬儀場でする場合も多くなり、「互助」も少なくなっているのではないかと感じる。
- ・ 台風時など災害時の対応から、「互助」について考えてみた。やはり平常時の関係作りが大事である。

## これから

- ・ 人が集まる場所をもっと作っていかないといけないと思う。
- ・ 地域に出かけられる場、人と会える場を作っていかないといけない。
- ・ 健康な人にも相談があれば薬局に来てほしい。また住民に情報提供できるように薬局にいろいろな情報を教えてほしい。
- ・ 病気のない時からの薬剤師さんのかかわりは大事。予防に勝る医療はない
- ・ 複数の医療機関から多数の薬が出ている場合の対応はどのようにしたらしいのか。残薬袋の活用で意識していくように、住民に伝えていきたい。
- ・ 薬手帳が一つでないと重複している薬がわからない。薬手帳は一つにまとめていけるようにできるとよい。

- ・ 地域の中で小グループ単位で学習会など開催できれば良いと思う。
  - ・ ケアマネジャーが介入していない方へのアプローチは大事。まだ元気な高齢者に対して、健康状態を悪化させないために、情報提供が必要。
  - ・ 介護保険以外の社会資源(サロンや宅老所など)を把握しておくことで、住民に情報提供できる。
- 
- ・ 防災面から地域の「互助」について話し合いができるとよいのではないかと思う。何もないときからの声掛けも大切。
  - ・ 「最期をどう迎えたいか」本人の意思確認が難しい。家族もケアマネも難しい。だれに相談したらいいのか。家族が満足感が得られる介護とは。
  - ・ エンディングノートは、残された人が困らないためにということで話をして勧めていくこともできればよいのでは。
  - ・ 「どこで死亡したか」より、その人がどう過ごしたかが大事。本人の選択と心構えについて話し合う機会を持つことが必要。いろいろな機会に、そのことに向き合っていく文化を作っていくかないといけないと思う。